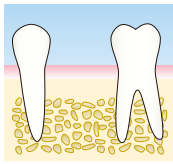


インプラント治療の流れ

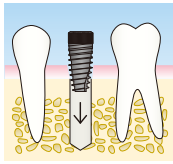
①診断と治療計画

レントゲンなどによる十分な診断を行い、インプラント治療に関する説明を受けます。



②インプラント手術

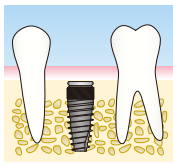
麻酔を行い、あごの骨にチタン製のインプラントを埋め込みます。



③治癒期間

インプラントと骨がしっかり結合するまで2～6ヶ月待ちます。

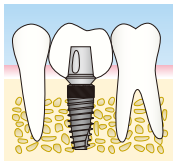
※一般的には、上の顎の骨に埋めた場合の方が結合までに時間がかかります。
※骨質などにより個人差があります。



④人工の歯を取り付ける

インプラントに歯の土台となるパーツを取り付け、人工の歯を作り、取り付けます。

※インプラントの種類によっては、局所麻酔を行い簡単な手術が必要です。



インプラントを長持ちさせるためには？

インプラントを長持ちさせるためには、インプラントに歯をかぶせてからのお手入れが重要です。

天然歯と同様に、毎日の歯磨きは欠かせないでください。

インプラントの周囲が不潔になると、腫れやうみが出て、骨の吸収が起こり、インプラントが抜ける可能性があります。ただし、早めの対処で止めることができます。

歯医者さんで定期検診を行ってください。

インプラントには神経がないため、天然歯のように悪くなくても自覚症状がありません。少しでも気になることがあったら、早めの検診をお勧めします。

噛み合わせが変わったら、先生の指示を受けてください。

インプラントの治療後、歯を抜いたり、歯がグラグラしたまま放置すると、噛み合わせのバランスが崩れ、インプラントや残った歯に悪い影響を及ぼす可能性があります。

インプラント治療のご案内



純国産

日本生まれの日本人のためのインプラント

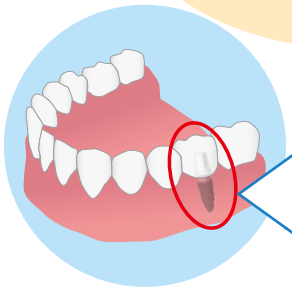
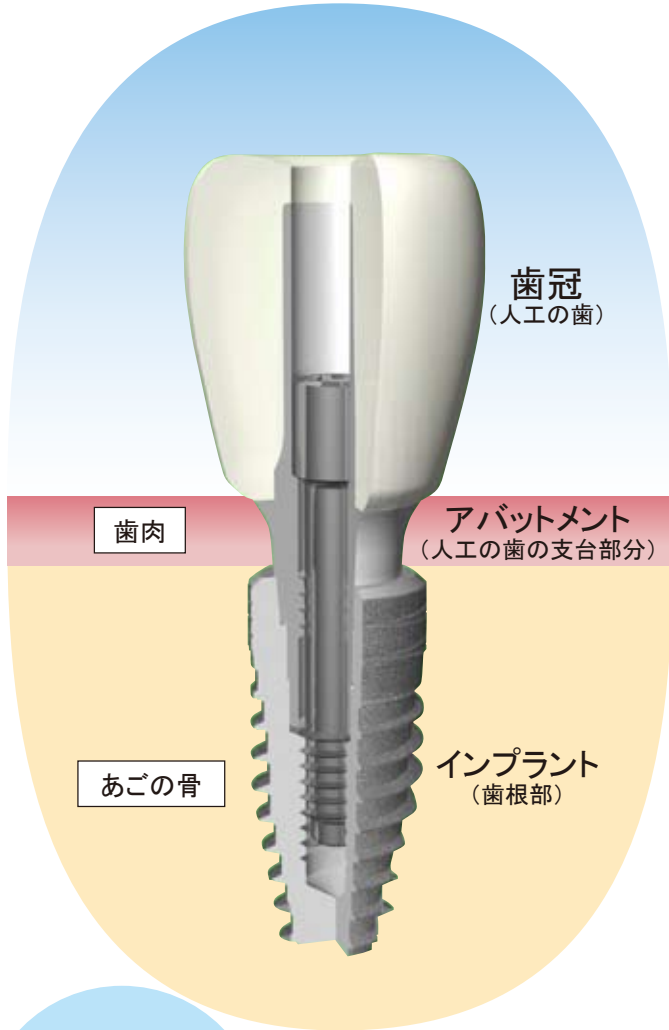
Alphatite Implant
アルファタイトインプラント



インプラント治療

歯が抜けたり、無くなってしまったところにチタン製の人工歯根(インプラント)を埋め込み、人工の歯を被せる治療方法です。

インプラントの構造



この赤丸の部分のようにインプラントを埋入します。

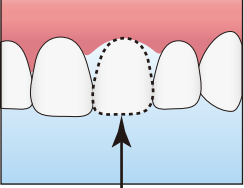
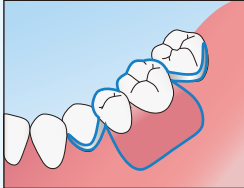
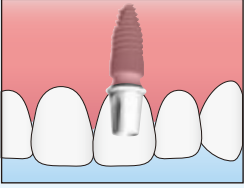
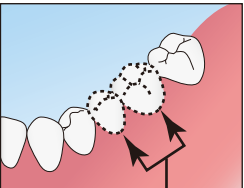
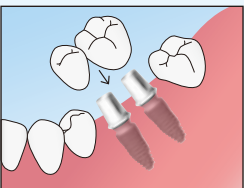
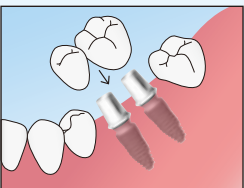
歯を失うと？

- 見栄えが良くない
- 歯が無くなった方向に移動する
- 発音がしにくい

歯を失った場合、見栄えが良くないだけでなく、上下の噛み合わせが変わり、食べ物が噛みにくくなったり、あごや身体に影響が出る場合もあります。

従来の治療方法『ブリッジ・入れ歯』と新しい治療方法『インプラント』を以下で比較します。

従来の治療方法(ブリッジ・入れ歯)と新しい治療方法『インプラント治療』との違い

治療前のお口の状態	従来の治療方法	新しい治療方法
<p>ブリッジ</p>  <p>上図の矢印部分の歯を1本失ってしまった場合</p> <p>ブリッジとは失った歯の両隣の歯を支台の形(上図赤点線部分)に削り、その上に歯冠(上図青線部分)を乗せ固定する治療法</p>	<p>入れ歯</p>  <p>入れ歯とは失った歯の代わりに入れ歯(上図の青線部分)を乗せ、金具等で両隣の歯に固定する治療法</p>	<p>インプラント</p>  <p>【メリット】 ○見栄えが良い ○ブリッジのように、失った歯の両隣の歯を削る必要がない</p> <p>【デメリット】 ○費用が保険適用外 ○全身疾患によっては治療を受けられない場合がある</p>
<p>インプラント</p>  <p>上図の矢印部分の歯を2本失ってしまった場合</p> <p>【メリット】 ○治療期間が短い</p> <p>【デメリット】 ○入れ歯を固定する金具の異物感がある ○金具を固定する両隣の歯に負担がかかる</p>	<p>インプラント</p>  <p>【メリット】 ○見栄えが良い ○入れ歯のように、金具による異物感やズレなどが生じない</p> <p>【デメリット】 ○費用が保険適用外 ○全身疾患によっては治療を受けられない場合がある</p>	<p>インプラント</p>  <p>【メリット】 ○見栄えが良い ○入れ歯のように、金具による異物感やズレなどが生じない</p> <p>【デメリット】 ○費用が保険適用外 ○全身疾患によっては治療を受けられない場合がある</p>

正しい歯みがき、定期検診を受けましょう。